

のニホンザルが生息し、半島北部からの開発の波の激しい房総半島での実地調査を1980-1983年の期間行ってきた。成果は「房総半島の孤島性とその文化の研究」としてトヨタ財団「身近な環境をみつめよう」研究コンクールに提出され、現在そのまとめを印刷中である。

総 説

- 1) 東 滋 (1982): 屋久島の原生林をどう未来に残すか—瀬切川上流の伐採中止をめぐる一。自然保護, 239, pp. 6-8。

論 文

- 1) 川村俊蔵・田中 進・泉山茂之 (1983): 強煙火システムによるニホンザルの耕地回避学習実験, I。鳥獣行政。
- 2) Kawai, M., R. Dumber, H. Ohsawa & U. Mori (1983): Social Organization of gelada baboons: Social units and definitions. Primates, 24 (1): 13-24.

報告・その他

- 1) 鈴木 晃 (1982): 房総半島の孤島性とその文化の研究。トヨタ財団「身近な環境をみつめよう」第1回研究コンクール提出報告書。全200頁。
- 2) 和田一雄・松沢哲郎・後藤俊二・東 滋・川村俊蔵・長谷川芳典 (1982): 食物嫌悪条件づけによる野生生物の食性の統制。昭和57年度科学研究費一般(C)報告, P. 3-6。

学 会 発 表

- 1) マダガスカル, ベレンティにおけるワオキツネザル (*Lemur catta*) の社会行動。
小 山 直 樹
第27回プリマーテス研究会 (1983)
- 2) 強煙火システムによるニホンザルの耕地回避学習実験, I。
川村俊蔵・田中 進・泉山茂之
第27回プリマーテス研究会 (1983)
- 3) チンパンジーの研究をふりかえって。
鈴 木 晃
千葉県生物学会第300回例会記念講演 (1983)
- 4) ニホンザルにおける食物選択の戦略。

—食物嫌悪条件づけによる食性の統制—
松沢哲郎・後藤俊二・東 滋
長谷川芳典・和田一雄

第27回プリマーテス研究会 (1983)

- 5) 北限のサルのポピュレーションと行動域は安定しているか。

足沢貞成・東 滋・増井恵一

鈴木延夫・綿貫 豊

第27回プリマーテス研究会 (1983)

変 異 研 究 部 門

野沢 謙・和田一雄
庄武孝義・峰沢 満

研 究 概 要

- 1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野沢 謙・庄武孝義・川本 芳¹⁾

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し、群内、群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル42群、総個体数約2300頭の血液試料について、約30種の蛋白の構造を支配する計32遺伝子座の検索を行ってきた。1982年度は新たに2遺伝子座を追加した。このデータをもとにして、統計的検討を加え、繁殖単位間の毎代の移出入率、遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い、ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。

- 2) *Macaca* 属サルの系統的相互関係

野沢 謙・庄武孝義・峰沢 満

ニホンザルを含む *Macaca* 属サル各種から採血を行い、前項1)と同一の方法によって種内・種間の遺伝学的変異性を定量化し、それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝的距離で表現し、それに数量分類学的手法を適用して枝分れ図を描く。それにより種間の近縁関係、分化時間の推定等をおこなう作業を目下続行中である。1982年度には、カニクイザル、トクモンキー、セレベスマカクの分析結果を論文化した。

- 3) ニホンザルの先天的四肢奇形への遺伝的アプローチ

野沢 謙・峰沢 満

ニホンザルの数多くの餌付け群に多発する先天

- 1) 大学院学生

的四肢奇形が遺伝的支配を受けているか否かを明らかにすべく研究が続行されている。集団の奇形出現の家族集積性のデータから統計遺伝学的手法を用いて遺伝率の推定を行う他、細胞遺伝学的手法を用いて奇形出現と染色体異常との関連の有無を明らかにする作業を行っている。交配実験は淡路島猿公園の協力を得て現地で続けている他、日本モンキーセンターとの共同研究として宮島から入れた奇形ザルを用いて本研究所においても続行している。

4) 家畜化現象と家畜系統の研究

野沢 謙・庄武孝義

在来諸家畜とそれらの野生原種の遺伝的野外調査によって、家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と、個々の家畜内で地域集団間の遺伝的分化の程度、系統的相互関係の解明を行いつつある。

5) ヒヒ類の種分化に関する遺伝学的研究

庄武孝義・野沢 謙

1978年度の調査により入手した材料を用いてエチオピア中央高原に生息するゲラダヒヒの集団動態を遺伝学的に分析し、さらに、ドリル、マンドリルの資料を加え、ヒヒ類の遺伝的分化を定量化し、論文化しつつある。

6) ニホンザルの細胞遺伝学的研究

峰 沢 満

ニホンザルの血液を培養、染色体標本を作成する。これに各種のバンド染色を適用して標準核型を作成した。これに基づきニホンザルの各地の集団における染色体の変異性を明らかにすべく作業を続行している。

7) 新世界ザルの遺伝学的研究

峰 沢 満

1982年度ボリビアにおいて入手した、リスザル、ヨザル、フサオマキザル、ダヌキーティティ、クロホエザル、ムネアカタマリンの6種について遺伝的変異性(染色体変異および電気泳動法によって検索する遺伝的変異について)を定量化すべく作業を続けている。

8) 志賀C群の秋期の食物利用調査

和田 一雄

数年間継続中の調査であり、Seed trap による食物の生産量調査を行なっている。

9) ゼニガタアザラシのセンサスの入網溺死個体の生物調査

和田 一雄

センサスは6月と10月に実施した。死亡個体167頭についての胃内容物、内部生殖器組織検索等を行なった。

論文

- 1) Nozawa, K., T. Shotake., Y. Kawamoto and Y. Tanabe, (1982): Electrophoretically estimated genetic distance and divergence time between chimpanzee and man. *Primates*, 23: 432-443.
- 2) Shotake, T. and C. Santiapillai (1982): Blood protein polymorphisms in the troops of the toque macaque, *Macaca sinica*, in Sri Lanka. *Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates* (1982) 2: 79-95.
- 3) Kawamoto, Y., O. Takenaka and E. Brotoisworo (1982): Preliminary report on genetic variations within and between species of Sulawesi macaques. *Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates* (1982) 2: 23-37.
- 4) Kawamoto, Y., Tb. M. Ischak and J. Supriatna (1982): Gene constitution of crab-eating macaques (*Macaca fascicularis*) on Lombok and Sumbawa. *Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates* (1982) 2: 57-64.
- 5) Kawamoto, Y. (1982): A reexamination of electromorphs of plasma transferrin in the Indonesian crab-eating macaque (*Macaca fascicularis*). *Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates* (1982) 2: 75-78.
- 6) Harada, M., M. Minezawa, S. Takada, S. Yenebutra, P. Nunpakdee and S. Ohtani, (1982): Karyological analysis of 12 species of bats from Thailand. *Caryologia*, 35: 269-278.
- 7) 伊藤徹魯・和田一雄 (1982): ゼニガタアザラシと沿岸漁業の関係についての予備調査報

河合雅雄・杉山幸丸
大沢秀行・森 明雄

研究報告・その他

- 1) Shotake, T. and K. Nozawa (1982): Genetic variability within and among herds of gelada baboon, *Theropithecus gelada*, in Central Ethiopian Plateau. In: Molecular Anthropological Studies on the Phylogenetic Relationship among Ethiopian Baboons, *Papio anubis*, *Papio hamadryas* and *Theropithecus gelada*. Report of Grant-in-Aid for Scientific Research (C). pp.26-39.
- 2) 野沢 謙 (1982): 動物家畜化の遺伝学。「Domestication の生態学と遺伝学」(京大霊長研) pp.1-12。
- 3) 野沢 謙 (1983): 日本の家畜とその系統。「日本農耕文化の源流」(佐々木高明編, 日本放送出版協会) pp.213-254。

学 会 発 表

- 1) 野沢 謙: 生化学的遺伝標識によるニホンザルの群れの近交度の評価。第27回プリマーテス研究会 (1983)
- 2) 庄武孝義, Charles Santiapillai: トクモンキー (*Macaca sinica*) の群内群間の遺伝的変異性。第27回プリマーテス研究会 (1983)
- 3) 川本 芳, 野沢 謙, Tb. M. Ischak, Jatna Supriatnu: インドネシア産カニクイザル (*Macaca fascicularis*) 群集団の遺伝的分化。日本遺伝学会第54回大会 (1982)。
- 4) 川本 芳, 竹中 修, Edy Brotoisworo: Sulawesi Macaques の種内・種間遺伝的変異—予報—。第27回プリマーテス研究会 (1983)。
- 5) 峰沢 満: ボリビア産新世界ザルの細胞遺伝学的研究・予報。第27回プリマーテス研究会 (1983)。
- 6) 松沢哲郎, 後藤俊二, 東 滋, 長谷川芳典, 和田一雄: ニホンザルにおける食物選択の戦略—食物嫌悪条件づけによる食性の統制—。第27回プリマーテス研究会 (1983)。

研 究 概 要

- 1) 西アフリカ熱帯多雨林の霊長類の社会生態学的研究

河合雅雄・森 明雄・丸橋珠樹¹⁾

西アフリカ・カメルーン国においてドリルおよびマンドリルヒヒの現地調査を1979年より開始, 現在も継続中である。1981年度までは主に糞分析法によって採食生態を明らかにして来た。1982年からは, カメルーン国のカンボの動物保護区に集中して, マンドリルを中心としながら同所に生息する7種の霊長類の森林への適応の様相を研究し, 比較検討している。マンドリルについては人づけが進み, 直接観察が増加し, 伝達行動および社会学的データも増加している。

- 2) ニホンザルの個体群生態学的研究

杉山幸丸・大沢秀行

高崎山の餌付け個体群を対象に個体標識による継年追跡を続行中であり, 詳細な人口学的パラメーターを算出し生命表を完成しつつある。一方, 霊仙山では餌付け中と餌付け放棄後の個体群動態が細部に及んで比較検討され, 各人口学的パラメーターに及ぼす餌付けの影響が社会学的階層との関連において追及されている。

- 3) 動物における子殺しの社会生態学的研究

杉 山 幸 丸

ハヌマン・ランゲールで最初に確認された野生動物社会における種内子殺しの近因と遠因, その相互関係を, 野外調査を交えながら理論的に考察している。

- 4) ベルス・チンパンジーの行動生態学的研究

杉 山 幸 丸

1982年11月より翌年3月まで, 西アフリカ・シエラレオネのティフィとギニアのボッソウにおいて野外調査を行なった。ボッソウでの調査は断続的ながら6年半におよび, 全個体識別によって出生, 消失, 死亡, 移出入等の個体群動態の長期的把握が進んでいる。

- 5) サバンナに生息する哺乳類の個体群生態学的研究